

伝統あるJR総連運動を汚さないために、**真実を明らかにする！**

“過ちては改むるに憚ること勿れ”

12月13日、JR総連近畿地協の津崎議長はJR東海労関西地本の笹田委員長へ以下のLINEを送信してきました。その内容は、、、

「電話しましたが、通じないのでLINEで今日の地協常任委員会での確認事項を一報します。

出席者は、津崎、菅野、稻垣、山本、中村、末松、鴨川、中塚、田中の9名。13名中9名で常任委員会は成立です。

11月26日の定期委員会後の打合せで、津崎議長が組織破壊攻撃を確認したと言っていましたが、組織破壊攻撃を確認したことは無かったことを出席した常任委員全員で確認しました。

津崎議長の11月26日の組織破壊攻撃の確認は撤回します。申し訳ありませんでした。謝罪しあ詫び申し上げます。

しかし、本日の常任委員会で、あらためて規約規則に基づかないビラ配布や9月8日付け怪文書の配布は、定期委員会を混乱させる行為は事実として発生した為、これは組織破壊行為であることを今日の地協常任委員会で出席した9名の常任委員全員で確認しました。

また関係者に対して今後怪文書の出所や誰が主導したのかなど、聞き取り調査を行なっていくことも今日の地協常任委員会で確認しました。

以上、今日の地協常任委員会での決定事項の一報です。

という、当日開催されたJR総連近畿地協常任委員会の報告でした。

上記のLINEで「津崎議長」は、自らが主張していた「緊急常任委員会で組織破壊攻撃と確認した。」との主張や、菅野副議長の「山本事務局長が破壊という事でいいですかと、皆に提起して、皆が承認をした。」(12/8 浦谷常任委員と菅野副議長の電話での主張)が嘘であったことを認め、謝罪することを表明しました。

しかし津崎議長は、厚かましくも、「あらためて規約規則に基づかないビラ配布や9月8日付け怪文書の配布は、定期委員会を混乱させる行為は事実として発生した為、これは組織破壊行為であることを今日の地協常任委員会で出席した9名の常任委員全員で確認しました。」と主張する。まさに、嘘の上塗りを行ったのです。それは、下記の地協定期委員会の証拠(録音)の反訳を読めば明らかです。地協定期委員会の場で、津崎議長も、菅野副議長も、JR総連の熊谷書記長も、誰も、「定期委員会を混乱させる行為だ！」、「これは、組織破壊行為だ！」等とは一言の発言も主張もていません。要するに、11月26日に開催されたJR総連近畿地協定期委員会の質疑では、渡邊委員(JR東海労)の発言後、以下のようなやり取りがあつただけです。

○ 常任委員会席から菅野副議長が(拳手して)発言

(渡邊委員から)発言があったんですけど、紹介された、配られた民主化闘争情報の裏側に記載されている緊急声明・・・・、そもそもJR総連として正式に出ていないものだと思う・・・・、JR総連が正式に発行していない文書を地協の定期委員会の場で配布をするということについては、より、組織混乱を招くのではないかというふうに思いますので、裏面は。表面はね、インターネットに出ていますからいいんですけど。今日、この場で、裏面は正式に発行している文書ではないので回収していただきたいたいと思います。そう、私は思います。議長の取り計らいをお願いします。

- (津崎議長) ※定期委員会議長を自分のことだと勘違い
回収、回収、責任持って、してください。
- (傍聴席)
総連は発行しようとしたんですか！この緊急声明を！
- (熊谷書記)
関係ないでしょ！
- (傍聴席)
関係ないことなんかないよ！
- (熊谷書記長)
・・してないさ
- (傍聴席)
責任持つたらどうなんですか！
- (傍聴席)
ちょっと待って、回収はしましょう。回収は。
でも総連の方で回答はしてくださいよ。
- (菅野副議長)
JS労の問題等については地協の常任委員会では議論していない。
それをいきなり、そういう形で持ちこまれると、地協としてはどうなんかなあと
ありますので、冷静な対応をしていただきたいと思います。
- (傍聴席)
回収！
- (定期委員会議長)
ビラは回収ということにしたいと思います。(会場後方から常任委員が回収する)

以上のように、地協定期委員会で、渡邊委員が自らの発言を補足、解説するため配布した資料を、菅野副議長が、「JR総連が正式に発行していない文書を地協の定期委員会の場で配布をすることについては、より、組織混乱を招くのではないかというふうに思います」と言って回収するよう定期委員会議長に要請したのです。そしてこの時、菅野副議長は、「表面(『民主化闘争情報』)はね、インターネットに出ていますからいいんですけど」と言っていたのです。これを受けた定期委員会議長は、「ビラは回収ということにしたい」と決定したのです。

ちなみに後述しますが、渡邊委員は『民主化闘争情報』で明らかにされた『緊急声明』を具体的に示し、JR総連の熊谷書記長に対して、「本当に、JR総連作成の文書なのか、そうではなく、JR連合がでっち上げしたことなのか」を質問しただけです。だから熊谷書記長は、「JR総連が作成した文書なのか、JR連合でのっち上げなのか」を回答すれば済むだけの事なのです。それを菅野副議長が「JR総連が正式に発行していない文書を地協の定期委員会の場で配布をすることについては、より、組織混乱を招くのではないかというふうに思います」と言って、臭いものに蓋をするような形になったのです。

以上で明らかの様に、地協定期委員会では組織破壊行為などなかったし、当然、組織破壊行為がされた等との確認も主張もされていません。そして、証拠(録音)を確認すればよくわかる通り、地協定期委員会は何の混乱もなく、淡々と進められ、終了しているのです。これが客観的事実であり真実です。

したがって当然、定期委員会でも定期委員会後の打合せでも、組織破壊行為があつ

たとの確認も主張もなかつたし、確認も主張もできなかつたのです。

にもかかわらず、地協の最高決定機関である定期委員会の場で確認も決定もしないことを半月も経過した後に、下部機関である地協常任委員会が、「地協委員会で、組織破壊行為があつたなどと嘘の事実をでっち上げたのです。

以上のような、嘘に嘘を、誤りに誤りを塗り重ねる行為は、許されるものではありません。津崎議長をはじめとする近畿地協役員の皆さんには、即刻、“過ちては改むるに憚ること勿れ”とのことわざを思い出し、ただちに反省し改めるべきです。

そうしないと、ますます自らの首を絞め、墓穴を掘るだけでなく、伝統あるJR総連運動を汚すことになることを自覚するべきです。

ところで、JR総連の山口委員長は、JR東海労の臨時大会(12/14)で、「臨時大会を前に水を差すような事態がJR総連近畿地協定期委員会で発生している。」と前置きをして、以下のような発言をされました。

- 委員の発言の途中で、JR連合の「民主化闘争情報」が配られた。我がJR総連組織の定期委員会で敵対組織の情報を無断で配布する行為は、組織破壊行為である。
- 配布した意図はわからない。JR総連として近畿地協には配布の意図を明確にするための調査をお願いした。
- 配布された「民主化闘争情報」の裏面に、「JR総連緊急声明」なる(JR総連内部)文書が印刷されていた。JR総連の公式見解は9月13日付の文書しか存在しない。
- 検討中の(JR総連の内部)文書を、あたかも公式文書のように装い、組合員に誤解と不信を与える行為は組織破壊を狙つたものである。
- この検討中の(JR総連の内部)文書は、作成した当時、JR東海労三役に議論をお願いした。しかしトーンが高いということで発出していない。(JR総連の)組織内で公になつていない文書を、何者かがJR連合に送りつけ、民主化闘争情報に活用されたことは組織破壊行為以外のなにものでもない。一連の経緯を知らないJR総連全組合員に混乱を引き起こしている。
- 津崎議長や菅野副議長の回収の指示に対して、傍聴者から「撤収」という声が上がった。このビラ配布は、組織的に行われたという事だ。この問題の解明も近畿地協にお願いした。
- JR総連は第7回執行委員会(12/13)で、「11月26日開催の近畿地協第35回定期委員会で発生した、JR連合の情報とJR総連の内部文書を両面刷りし配布した行為は組織破壊行為である」と確認した。
- 近畿地協常任委員会も、昨日(12/13)、ビラ配布について組織破壊行為と確認し、関係者からの聞き取りを行うことを決定している。
- JS労の組織的な承認を受けるべき臨時大会を前にして、JR総連組織に対する一連の組織破壊が発生したことは看過できない事態である。JR総連としても地協や単組と連携をとつて事態の解決に向け議論を継続していく。

上記の様に、山口委員長は、誰も言っていない「撤収」などという言葉を意図的に使い、私たちが、あたかも組織破壊を企てたかのように映し出しています。

しかし、JR総連(山口委員長)の言っていることが出鱈目なことは、以下の近畿地協定期委員会での渡邊発言で一目瞭然です。

- みなさん、JR連合が11月17日発行した『民主化闘争情報』No.1037見てますよね？（この時、発言内容を分かりやすく補足・解説するための「参考資料」を、下茂委員に配布してもらう。）『民主化闘争情報』は、JR連合が、JR総連を攻撃するために、好き勝手に書いているものですが、この中に、JS労結成に対し、私が知らなかつた、見たこともなかつた、JR総連が9月8日付けで決議した『組織内組織の組合結成を認めない緊急声明』があると書かれているんです。
- 今日は、熊谷書記長が参加されておられますから聞きたいんです。熊谷書記長！この『声明』はJR総連が作られたものですよね！？JR総連は、JS労結成について、本当に『緊急声明』に書かれているように思っているんですか？そして、来年1月26日に開催されるJR総連の中央委員会で統制処分なども考えているんでしょうか。是非、ハッキリ答えてください。

上記で明らかですが、要するに渡邊委員はJR総連の熊谷書記長に対して、JR連合が『民主化闘争情報』で「JR総連が9/8付で決議した」と書いている『緊急声明』を具体的に示し、本当にJR総連が作成したのか否か、もし作成したのだとしたら、書かれていることが本心なのかどうかを質問しているだけの事です。

この渡邊委員の行為が、何故、組織破壊行為になるのでしょうか？

結成以来、会社・権力者による嘘やでっち上げを許さず、労働者のために闘ってきたはずのJR総連。今その一部指導者が自己保身のために、真実に背を向け、組合員に嘘をつき、組織破壊行為・組織破壊者をでっち上げようとしているのです。

他でもない、その行為こそが組織破壊行為であり、その指導者こそが組織破壊者です。その姿は、あまりにも哀れとしか言いようがありません。

私たちはこれからも、諦めずに真実を伝え、“過ちては改むるに憚ること勿れ”を求めていきます。

2023年12月27日
JR東海労働組合新幹線関西地方本部